

学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解

科目コード：120107

臨床薬理学 Clinical Pharmacology

担当教員	長谷川 昇				
実務経験					
開講年次	2年次前期	単位数	1	授業形態	講義
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	薬物の作用機序、治療戦略、副作用				
学習目的・目標	薬物の作用機序、作用点や薬効発現あるいは相互作用の要因となる吸収、分布、代謝、排泄などの薬理学的知識を習得する。さらに、主な疾患の成因・病態を理解し、薬による治療戦略（治療効果）、用いられる薬の作用機序と副作用、禁忌などの薬物治療学的知識を習得し、各薬物の効果的な使用方法について説明できることを目標とする。 【看護師国家試験出題基準】必修問題：12 薬物治療に伴う反応（A 主な薬物の作用と副作用、B 医薬品の安全対策）、疾病の成り立ちと回復の促進 3 疾病に対する医療（D 疾病に対する薬物療法、E 医療による健康被害）				
授業計画・内容					
回	内容				
1	薬物の作用（薬の役割、剤形、法的分類）				
2	薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）				
3	薬物の作用点、薬容量と投与経路、相互作用				
4-7	循環器障害と浮腫 1. 疾患の成因と病態 2. 心不全（強心薬、利尿薬、血管拡張薬） 3. 高血圧治療薬（利尿薬、 β 遮断薬、カルシウム拮抗薬、ACE阻害薬、ATII受容体遮断薬、 $\alpha 1$ 遮断薬）				
8-9	抗精神薬 1. 疾患の成因と病態 2. 抗精神薬（抗パーキンソン病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬）				
10-11	感染症・免疫疾患 1. 疾患の成因と病態 2. 抗生物質				
12-13	内分泌疾患 1. 疾患の成因と病態 2. 糖尿病治療薬				
14-15	抗癌薬 1. 疾患の成因と病態 2. 抗癌薬				
教科書	系統看護学講座「薬理学」医学書院				
参考図書等	「わかりやすい疾患と処方薬の解説2014」アークメディア				
評価指標	期末試験50点、中間試験40点、出席10点				
関連科目	人間機能学Ⅱ				
教員から学生へのメッセージ	人間機能学で学習した、「正常の人間の構造と機能」の知識と、人間病態学で学習した。「疾病の成り立ち」が基本となるので、よく復習しておくこと。問題提示－解決方式の講義を行い、レスポンスペーパーで質問を受け付ける。				